

## Electronic Finding Aids based on Encoded Archival Description for Fusion Science Archival Database

難波忠清、五島敏芳<sup>1)</sup>、高岩義信<sup>2)</sup>、松岡啓介、井口春和、花岡幸子、安倍尚紀<sup>3)</sup>、木村一枝、  
関本美知子<sup>4)</sup>、木村克美<sup>5)</sup>

核融合研、<sup>1)</sup>京大、<sup>2)</sup>筑波技術大、<sup>3)</sup>東京福祉大、<sup>4)</sup>高エネルギー加速器機構、<sup>5)</sup>分子研 (名誉教授)

NAMBA, C., GOTOH. H.<sup>1)</sup>, TAKAIWA, Y.<sup>2)</sup>, MATSUOKA, K., IGUCHI, H., HANAOKA, S., ABE, N.<sup>3)</sup>,  
KIMURA, K., SEKIMOTO, M.<sup>4)</sup>, KIMURA, K.<sup>5)</sup>

NIFS, <sup>1)</sup>Kyoto Univ., <sup>2)</sup>Tsukuba Univ. of Tech., <sup>3)</sup>Tokyo Univ. and Graduate School of Social Welfare, <sup>4)</sup>KEK,

<sup>5)</sup>IMS(Professor Emeritus)

### 1. 調査研究の背景と目的

2005年1月、NIFSに核融合アーカイブ室が設置され、以降、我が国の大学における核融合研究・開発に関連する資料の収集・整理・保管・提供に努めてきた。その結果、すでに20,000点余の資料が作業用のデータベースに収録された。これら収集・整理された史料等が広く活用されるためには、それらの史料等がデータベース化され、さらに適切な検索手段を具備して公開されることが必要である。核融合アーカイブ室では、検索手段の標準化およびアーカイブズ資源の共有化を目指し、共同研究を進めている。これにより核融合関連に留まらず、同様なアーカイブズとの、資源のより広い共有化を実現しようとするものである。今回はこの研究について報告する。

### 2. アーカイブズの記述と検索手段の標準化 (EADに基づく検索手段の構築)

我々は、上記の検索手段としてEAD (Encoded Archival Description; 符号化記録史料記述)を採用し、核融合アーカイブズデータベースを構築し、web上で公開することを目指している。このEADを採用したのは、1)これが各国の主要公文書館でも採用されている史料目録記述の国際標準であり、2)webによる公開に適している、3)我々がすでに作業用として構築しているデータベースからの移植が容易であることなどである。

EADは、アーカイブズの検索手段 (finding aids) を電子的に符号化するに当たって、記録史料を記述するために必要な要素は何かという意味内容を具体的に配列・構成するための規格である。また、EADが記録史料カタログを記述する上で持つ卓越した特徴は、その「階層構造」である。核融合科学研究所アーカイブ室では、階層として:

『Repository Level = 核融合科学アーカイブズ (他の例では: KEK, YUKAWA など)』、『Collection Level = 史料の出所 (史料提供者個人、または組織)』、『Series Level = 1個の史料保存箱』、『File Level = 1個のファイルに収められた史料の集合』、『Item Level = 個々の史料』と設定し、構築を進めている。図1に示すスクリーン画面は、EAD-XML検索システムの上に準備された検索画面の一例である。このEAD化されたデータベースは、国文学研究資料館の「史料情報共有化システム」及び「EAD-XML検索システム」を用いて構築されている。これにより、同じく国文研の「EAD-XML検索システム」に参加している他の史料館などの史料目録を同時に横断的に検索することが可能となる。核融合研究に関する歴史的史料は、すべてが我々の手許に集約されているわけではない。予期しなかった大学等の史料室において収集されていることも十分予想される。湯川記念館史料室 (京大)、坂田記念史料室 (名大)、朝永記念室 (筑波大) など関係の深い史料室もこのシステムに参加している。また、NIFSが属する自然科学研究機構内の分子科学研究所、国立天文台、生理学研究所、さらには同じく大学共同利用機関である高エネルギー加速器研究機構もこのシステムに参加しているか参加予定である。横断検索の機能を用いることにより、これら史料室等の目録も同時に検索が可能であり、核融合アーカイブ室で保有しない史料の発見など、その効果は大いに期待される。



図1 EAD-XMLに基づく検索画面 (一例)